

第三者検証報告書

2012年7月31日

カシオ計算機株式会社 御中

株式会社サティスファクトリーインターナショナル
東京都中央区八丁堀三丁目12番8号
代表取締役 小松 武司



検証の対象及び目的

株式会社サティスファクトリーインターナショナル（当社）は、カシオ計算機株式会社（会社）からの委嘱に基づき、会社が発行するカシオサステナビリティレポート2012（レポート）に記載される2011年度（2011年4月1日～2012年3月31日）環境パフォーマンスデータ（データ）に関してレポートに記載する目的に適した妥当性、信頼性および一貫性があるかどうかを検証した。検証の目的はデータの正確性を確認し、客観的証拠に基づき検証意見を表明することである。データは会社の責任のもとに収集及び集計されたものであり、当社の責任は第三者の立場から結論を表明することにある。

範囲

検証の対象範囲としたデータは、1）インプット：エネルギー投入量（電力量、燃料）、水資源投入量、SF₆投入量、SF₆以外の温室効果ガス投入量、VOC投入量、PRTR法対象化学物質投入量、雨水利用量、循環水利用量、2）アウトプット：温室効果ガス排出量（CO₂、SF₆、その他）、大気汚染物質（NO_x、SO_x、ばいじん）、VOC大気排出量、排水量、BOD、PRTR法対象化学物質、廃棄物等発生量、最終埋立処分量、再資源化量、3）物流・販売におけるCO₂排出量、4）製品使用におけるCO₂排出量。

対象範囲とした事業所は、6つの国内生産拠点、12の国内オフィス拠点、3つの海外生産拠点及び18の海外オフィス拠点の合計39事業所である。

検証方法

当社は、会社が提供した資料の確認及び5事業所への往査における資料の閲覧、担当者への質問、根拠資料の証憑突合により以下の事項を評価した。検証業務は当社独自の検証基準（温室効果ガス排出量の検証についてはISO14064-3と同等レベルの基準）に基づき実施した。

- データの収集・集計システムの信頼性、運用の適切性
- データの集計範囲の適切性
- 計測データ、収集データの信頼性および集計結果の正確性
- 集計されたデータから導かれた結論の妥当性

結論

- レポートに記載されるデータに重大な誤りは確認されなかった。
- 検証の過程において確認された誤りはすべて適切に修正された。
- データの計測、収集及び集計システムには信頼性があり適切に運用されている。